

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1272700566		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム じょんから		
所在地	千葉県我孫子市布佐3078-9		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成31年1月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

できる限り入居者様に楽しんで生活していただけるために、行事やレクリエーションに力を入れています。年間行事のすべてが同じ行事内容にならないように見直し、趣向を凝らして少しでも違う雰囲気のある行事になるように心掛けています。さらに関連機関の催し物や地域の行事に参加させていただくようにしています。又誕生日会やお祝いの会(施設内、御本人の希望する場所、喫茶店)を開催し、毎日のレクの時間も設けて楽しんで頂いています。毎日の食事に関しては、29年度より食品会社の変更により体制が変わりましたが、入居者様その時々体調や症状に合った形態の食事を考え提供し、嗜好に合わせてメニューを変更するようにしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

JR成田線布佐駅から徒歩で8分ほど、訪問や買物に便利で自然環境にも恵まれた、2ユニットの明るいホームです。開設後14年経過していますが、建物内部は、掃除が行き届き清潔に保たれています。「地元の人達と交流を持ちながら、明るい家庭的な雰囲気を目指す。」と運営理念を掲げ、ベテランの職員も多くチームワークを發揮して、利用者個々の思いに寄り添う介護を実践しています。地域のお祭りには、毎年山車や子供みこしが休憩所としてホームに立ち寄ってくれるので、かき氷やおでん、お菓子などを提供しています。また幼稚園児との交流会や、クリスマス会には教会から15名程が賛美歌を歌いに来てくれたり、地域との交流を積極的に行っています。医療法人の理事長が主治医で、医療連携も取りやすく、施設長が看護師なので、利用者・家族に安心感があります。また回診時に音楽療法を兼ねて二胡の演奏があり利用者の楽しみになっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の人達と交流を持ちながら明るい家庭的な雰囲気を目指すという運営理念を掲げ、実践できるように努めている。	地域密着性を織り込んだ運営理念をパンフレット、玄関やホーム内に掲示しています。職員は月1回の職員会議などで確認・共有し日頃のサービスの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○町内会に加入して、回覧板を回し挨拶をかわしています。 ○地域のお祭りの休憩所として駐車場を開放し、かき氷やポップコーン、おでんを提供。	毎年地域の祭りの時に休憩所を設置し山車や子供みこしが訪れます、また、アンサンブル、大正琴、園芸ボランティアなどを受け入れています。散歩時の教会の牧師との会話から、クリスマス会には、賛美歌を15名で歌ってくれるなど地域交流も活発に図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	布佐地区社会福祉協議会の委員となり、月1回の会議に参加し、グループホームの説明や理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や意見等をいただき、職員会議での議題提供にて話し合い、サービス向上に生かせるよう努めている。	会議は、市職員、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、家族等が参加して年6回偶数月に開催し、活発に意見交換し忌憚のない意見をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールでのやり取りが主であるが、諸手続等には役所に赴き、担当者からアドバイスを頂いている。その他運営推進会議にも出席して頂いているので意見交流に努めている。	運営推進会議に、市職員と地域包括支援センターの出席があり、意見交換することで密接な協力関係が築かれています。介護相談員も毎月2名受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、職員会議にて入居者の現状を検討し、記録するようにしている。施錠については、玄関の戸締り以外はしていないが、2階出入口は安全を重視して行っている。	施設長は職員会議時に、身体拘束委員会を開催し、具体的な禁止11項目などを周知徹底させています。2階の出入口は施錠していますが、職員は拘束感を抱かせぬよう見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉による虐待もないように心掛けている。日頃から、入居者の身体の観察を行い(トイレ誘導時・更衣時・入浴時)、報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を開いて学習の場を持ち、関係機関との体制をとっている。(入居者2名成年後見人がついている。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、空室発生時、契約時に十分な説明を行い、理解納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、ご利用はほとんどありません。面会時やお電話等で意見やご要望をお聞きしています。又言いやすい環境作りに努め、その都度状況説明を行っている。	家族については、来訪時や各種行事(夏祭りや誕生日会など)及び運営推進会議などで、意見や要望を聴いて運営に反映させています。利用者については、日頃の触れ合いの中に加え、毎月訪れる2名の介護相談員から情報を得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に意見を聞いたり、毎月の職員会議に意見を出し合っている。定期的に親睦会を開き、屈託のない意見を述べられるようにしている。	施設長は、月1回の職員会議や個人面談及び就業時の中から、意見、要望を把握し運営に反映するよう努めています。また年2回(新年会・忘年会)懇親会を行っているので、職員との信頼関係が出来ており、何でも言い合える環境があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を取り入れ、職員のやる気に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の1名の合格あり。今年度、社会福祉士資格獲得にて通信教育受講中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、関連施設6つのグループの管理者会議を開き、議題を決め意見交換を行っている。又、3か月に1回の市のグループホーム分科会の勉強会に参加し、交流を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くことが大切な事を職員全員に日々説明し、理解して笑顔でケアするように心がけてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様に信頼関係を築くことが大切であることを職員全員に理解してもらい、丁寧に接するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状態を日々観察し、その時々で必要な支援を見極め、御家族と話し合い対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人のできることを見極め、洗濯物たたみや食器拭き、食事準備等の手伝いを行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が面会に見えた時など、お茶を入れ一緒に話をしたり、居室担当職員からの要望等を話し御家族と協力して入居者様を支えていけるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の友人の来訪に関しては暖かく見守り、協力体制をとっている。かかりつけの病院の通院等も行う。	面会の時間は定めておらず、面会者には笑顔で応対しており、訪れやすい雰囲気作りに努めています。正月には自宅に帰って家族と過ごしたり、行きつけの美容院に行くなどができるよう、なじみの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握して入居者同士の相性等を考慮したうえで食堂の席を決めたりしている。職員が仲介の立場になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談にのるケースが増えている。関連施設に移動された方や退去された御家族からの相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、又施設の生活に慣れてこられた時など、時間を設け、いろいろな状況を把握しできる限り本人の意向を取り入れるよう心掛けている。	発語の少ない人に職員がどんどん話しかける事で会話が増えたり、塗り絵やボール遊び、歌など様々なレクリエーションに参加を呼びかけ、得意なことが見つかるなど、利用者の生き生きとした表情をキャッチして支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や利用者から話を聞き、情報を得るようにしている。極端に環境が変化しないよう、なじみの家具や物を自室に置いていたくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態・様子観察を行い、心身状態の変化の把握に努め、ケース記録や連絡帳にも記録し共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、居室担当職員等と話し、意見を反映させてケアプラン作りをするよう努めている。又計画書・モニタリング等は職員も目が通せるようケース記録にファイリングしている。	入居時に本人・家族からの聞き取りとともに、かかりつけ医や利用していたサービス事業所からの情報をもとに計画を立てています。短期目標に合わせてモニタリングとプランの見直しを行っています。	介護計画作成の流れや時期を明確にするのと同時に、日々の支援に介護計画が生かされるよう、仕組みを整える事が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、介護計画に活かせるよう努めている。又職員会議等において入居者状況を話し合い、実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	整体院への通院等、ご家族の希望があれば、通院という形で行っていたこともある。今後も連携をとりながら対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議における民生委員や地区の相談室からや、社会福祉協議会会議における催し物等の情報により支援体制を検討し参加を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を尊重して受診するようにしている。 整形外科・眼科・歯科・内科	入居時にかかりつけ医を選択しています。医療法人が母体であり、看護師が常駐しているため医療連携が取れており、健康管理の面では本人も家族も大変安心してしています。専門医への受診は家族が対応できない時には職員が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々状態把握に努め、訪問看護師と常に連絡をとり相談や看護支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関とは、入院先のケースワーカーと連絡を密にとり、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて随時御家族や主治医、看護師との連携を図り、その時の常態にあった支援が出来るように努めている。ターミナルの同意書を取っている方もいる。ターミナルケアの学習会を行う。	入居時に「終末期看取り同意書」を本人・家族に示して意向を確認しています。重度化した場合には医師からの指示と家族の意向をもとに今後の方針を決めていきます。これまで看取りの例はありませんが、終末期の勉強会を行い看取りに向けての体制を整えつつあります。	医療連携が取れており、関連施設への受け皿もあることから、家族は重度化した場合に気持ちが揺れることが多いので、早い時期から話し合いを重ねて納得のいく選択ができるよう、組織的に取り組むことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会等で学び、緊急時にも対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(個々に合った誘導の仕方、防災頭巾の着用)防災設備の定期点検、食料の備蓄を行う。隣のスーパーや薬局へは報告のみ。	消防署立会の夜間想定訓練(消火・避難誘導・水消火)と自主訓練(消火・避難誘導)を年に1回ずつ実施しています。スプリンクラーはじめ必要な防火設備は整い、緊急連絡網や対応表も掲示され、備蓄は4日分準備しています。	運営推進会議でも災害対策の意見も出ていますが、2階に車いす使用者がいるので災害時の脱出方法等自治会の協力と理解を得ておく事、また地域に頼りにされる可能性のあるホームとして、備蓄の内容・数量の見直しを続けることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重したケア・言葉かけが出来るよう努めている。職員には個別指導を行う。	個人ファイルなどの個人情報は事務所の棚に保管してあります。また利用者に対しては目上の人に対して尊敬の心を持って接するよう指導しています。排泄や入浴時の羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人から思いや希望が表せない方もいらっしゃるが、なるべく問いかけを行い、表情やしぐさから察知するよう、又できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっているが、無理強いすることなく、新聞を読んだりパズルやトランプ、ボール遊び等楽しめるような支援が出来るようになってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人やご家族にも協力していただき、本人の意向をできるだけ尊重した支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭き等出来ることを手伝っていただきながらその人の意欲を引き出している。職員も一緒に食事をとり、楽しい雰囲気の中食べられるように努めている。	利用者はテーブルを拭いたり、配下膳など自分のできる事を手伝っています。夏には庭で収穫した野菜が食卓に並び会話も弾みます。小グループで外食したりホーム内で利用者の好きな寿司を食べる日もあり、食事を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量チェック表にて、毎食の食事・水分量を記入し、一日のトータル量把握し、栄養補助剤の投与や夜間の水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学習会で学び合い、毎食後のうがいを行い、入れ歯洗いや自室での歯磨き等、個々に応じた口腔ケアの実践を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送り等で情報を共有し、職員がその人の排泄パターンを把握し、適切な支援が出来るように努めている。	ほぼ全員が排泄に何らかの介助が必要です。尿意があっても失禁してしまう場合が多く、職員は一人ひとりの排泄のパターンをチェック表などで把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう定時誘導の他に、個別にトイレに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を必ず確認し、排泄チェック表を利用して皆が把握し、便秘傾向のある方は、医師や看護師、管理者に相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活時間帯の関係上、基本的には入浴時間は決まっているが、入浴の希望があれば添えるようにしたり、入るタイミングや入浴剤の使用などとして、入浴が楽しめるよう支援している。	週に2回のペースで入浴しています。一人30分を目安にゆっくり入浴を楽しんでいます。入浴を拒否する人には声かけを工夫したり、日を変えたりしますが無理強いせず、居室で清拭を行い清潔を保つこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限りその人のペースに合わせ、否定せず支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者情報・薬箱に薬の名前と効用を記載し、把握に努めている。セットして内服するまでの間に職員の人を変えダブルチェックを行い、食前薬や食後薬を声を出して確認投与する。症状の変化も観察して報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や入居者情報作成時に又その後も御家族等からの情報を頂き、その人に合った支援が出来るよう皆で共有する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等で定期的に外出できる機会が持てるように支援している。また毎日の散歩や買い物、天気がいい日のベランダでの日光浴等を行い、又個別でのドライブなど外に出る機会を作るように心掛けている。	天気の良い日は毎日近隣を散歩しています。職員と利用者がほぼ1対1で行く事が多く、ゆっくり会話ができる貴重な時間になっています。広いデッキや玄関先で外気浴をする事もあります。年間では初詣や花見・梨狩りなどに出かけています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に御家族に理解を求め、それぞれの能力に応じた支援をするように心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着いて過ごすことが出来るように、気温や湿度の管理や定期的な掃除を行い、季節感のある花を置いたりして工夫している。	明るいリビング兼食堂は、広いソファが置かれ、利用者がゆったりと落ち着いて過ごせるように配慮しています。壁には日常生活や行事(クリスマス会、幼稚園児との触れあい)の写真やぬり絵が飾られ季節感があります。厨房から調理の音や匂いで生活感があり、管理者は、臭いや温度、湿度に気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース、リビングソファ、ウッドデッキや庭等があり、基本的には自由に使用できるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを用意していただくように御家族にお願いしている。それぞれに工夫されて生活されている。	清潔な居室は、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けです。クローゼットが広いので整理整頓が出来ます。利用者はテレビ、家族の写真、カレンダー、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込み、自宅に居るように過ごしています。お誕生日おめでとうの色紙の居室もあり、ホームの温かい気配りが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を大切に、トイレの位置や使用の仕方を何回も教えて体得されている。歩行時も環境整備を考え、手すりを使用していただきながら見守りを行っている。		